

|                  |   |
|------------------|---|
| <b>Title</b>     | 現代社会におけるポスト合理性の問題：ヴェーバーの遺したもの（総合研究所 NEWS：実施結果：アンケート集計結果の概要）   |
| <b>Author(s)</b> | 聖学院大学総合研究所  |
| <b>Citation</b>  | 聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-4：28-30   |
| <b>URL</b>       | <a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2670">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2670</a> |
| <b>Rights</b>    |   |

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

現代社会におけるポスト合理性の問題  
 ——ヴェーバーの遺したもの——  
 実施結果—アンケート集計結果の概要—

ポスト・モダンについての議論が一段落し、世紀の変わり目を経て、さらには9.11以降、わたしたちは「近代」について、ようやく反省的に語るができるようになった。はたして合理性は、近代の正統な所産なのか。聖学院大学総合研究所は、これまでマックス・ヴェーバーについてさまざまなシンポジウムを企画してきたが、今回はその総仕上げとして「ポスト合理性（非合理性・脱合理性・超合理性）」の問題について議論することとした。

主催：聖学院大学総合研究所  
 聖学院大学政治経済学部

日程：2010年11月23日 14：00～17：30  
 場所：メトロポリタン・プラザ12階会議室

【プログラム】

主催者挨拶

聖学院理事長、聖学院大学総合研究所長  
 大木英夫

第一部 講演

「行為、歴史、および説明の原則としての合理性—マックス・ヴェーバーに関する考察」  
 カール・アッハム K. Acham（グラーツ大学名誉教授）

翻訳：渡會知子（聖学院大学政治経済学部兼任講師）

「カリスマ——社会学の境界線上で」

ヨハネス・ヴァイス J. Weiss（カッセル大学名誉教授）

翻訳：佐藤貴史（聖学院大学総合研究所助教）

第二部 コメントとディスカッション

コメント

姜 尚中（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）

細見和之（大阪府立大学人間社会学部教授）

荒川敏彦（東京外国語大学、東洋大学非常勤講師）

土方 透（聖学院大学政治経済学部教授）

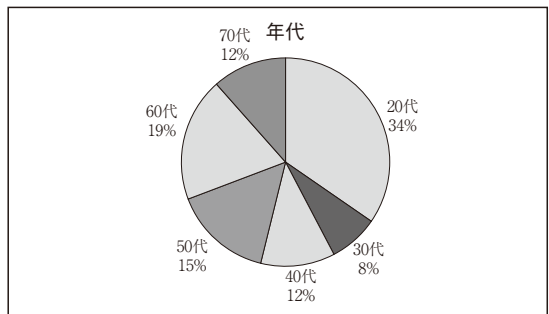
ディスカッション

コーディネータ：土方 透（前掲）

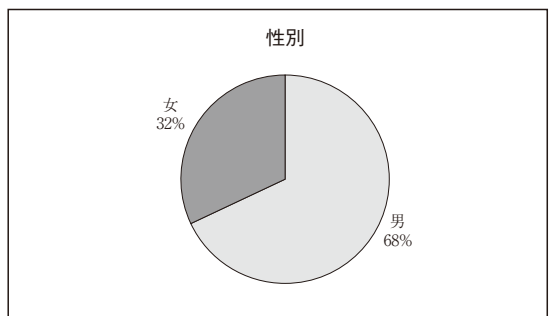
通訳：松戸行雄（元ハイデルベルク大学私講師）

【アンケート結果の概要】

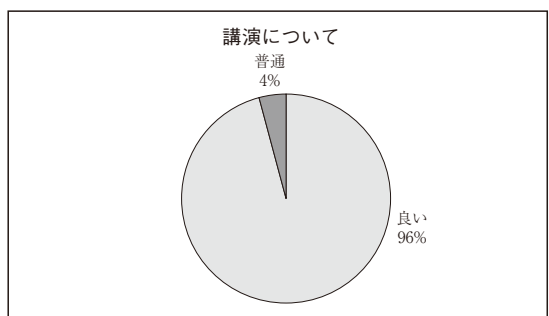
- ・参加者は84名。内、アンケート回答者は26名だった。
- ・講演について、「良い」が96%。コメントについて「良い」が100%と高い評価を得た。
- ・自由意見として、「内容は難しいが、満足した」「時間がもう少し長ければ」など。

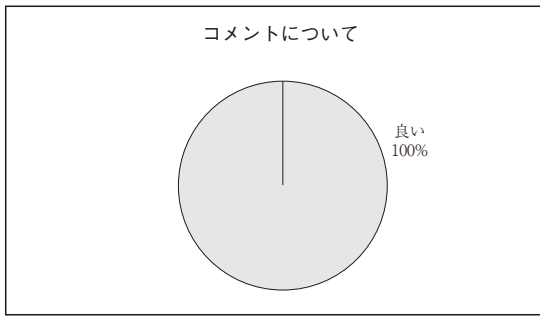


\* 回答者の年齢は、20代が最も多く、34%次に、60代19%、50代15%となった。



\* 性別は、男性68%、女性32%となった。





## 講演について

- ・両先生の講演は、各々別の機会でしたが、拝聴したことがあります。今日のお話は、ヴェーバー研究の範囲にとどまらず、シンポジウムの問題意識をより一般的なコンテキストから考えるうえで、大変面白い問題提起ではなかったのではないのでしょうか。その意味で非常に興味深く伺わせていただきました。
- ・社会における合理性、非合理性の議論をドイツ語圏の方にしていただく事はとても興味深く、重みがあったと感じました。
- ・ドイツ語での直接の講演が可能であれば、と思いました。
- ・事前に資料が欲しかった。そうすれば、講演内容の理解がより深かったであろう。
- ・海外のスピーカーにマイクは必要ないのではないか。通訳が聞きづらい。
- ・難しかった。

## コメントについて

- ・コメントをもっと聞いてみたかった。



講演者のカール・アッハム グラーツ大学名誉教授(左)とヨハネス・ヴァイス カッセル大学名誉教授(右)



講演を受けて4氏のコメントが述べられた

- ・論点が鋭く、本質をついていたのでは。
- ・4人の方々がそれぞれの立場から、コメントしておられ、その違い(視点の)が大変興味深かった。
- ・事前に資料が欲しかった。
- ・難しい内容だったのでコメンテーターの方のコメントで少し理解が出来ました。
- ・素晴らしい陣容だったと思います。
- ・専門的なことを易しく言い直してくれた。
- ・講演での問題提起をうけて、さらに議論を深めるうえで、有益なものではなかったかと思えます。とりわけヴェーバー研究に枠組を限定しなかったことが良かったと思います。
- ・非常に多彩で発展性のあるコメントと思えました。

## 自由意見

- ・本当に刺激をいただきました。今後も是非シンポジウムを続けていただければと思います。よろしく願いいたします。
- ・講演者のコメントに対する答えが、誠実でしかも興味もてた。お2人にとってのMax Weberとは何かにまで、議論が及ぶと良かったのでは。
- ・「合理性」「非合理性」の名において、様々な問題が絡むことを再認識し、大変勉強になりました。是非継続してご研究を続けていただければと思います。
- ・ドイツ語及び、和訳の原稿をいただけたので、理解の助けになりました。ディスカッションなどの通訳のタイミングについて少し申し上げま

すと、例えばパラグラフごとになさると、時間を節約できるのではと考えました。丁寧に事前準備がなされているように、シンポジウム全体を通じて感じました。関係者のみなさま、貴重な機会をありがとうございます。

- ・本日の講演、コメント内容は、今後の勉強（知的探求）に役立つものであった。  
カリスマ・合理的（性）の理解が深まった最後の司会のメが良かった。
- ・一番私が知りたかったのは、日本人はマックス・ヴェーバー的にいえば、どういう宗教意識をもっているかという事でした。例えば「武士道と資本主義の精神」。プロテスタンティズムと武士道との関係は。
- ・私自身は、ヴェーバー研究者ではありませんし、ヴェーバーについてはそれ程勉強しておりませんが、「近代」をめぐる問題については一貫して関心を抱いております。以前は、20世紀以降のドイツ思想について多少ですが接したこともあり、最近は英語圏での主に社会学などの近代モタニティをめぐる議論などを下敷きに、「近代」のあり方をその問題性ととも考えをめぐらせています。その様な立場から、大変刺激的な議論に啓発を受けたと感じております。企画として面白かっただけでなく、その内容も含めて有意義な催しであったのではないかと思います。
- ・社会学と人間学、「マス」と「個人」といった対立する領域の学問を超えることができる、壮大なテーマでした。
- ・2人の講演に対しては、2人のコメンテーター



合理性・非合理性・カリスマなどについて議論が重ねられた



86名の参加者があった

- ・コーディネーターを含め三人が言及すれば、時間的にも内容のかみ合いもよりうまくいったのでは。ただし、お三人方のどなたかが不要という意味ではない。
- ・社会学をもっと深く勉強したくなった。今はまだ読んでいる本も少なく、自分の意見もはっきりとは言えないけれども、非常に勉強になりました。
- ・評価は3択ではなく、5択くらいのほうが良いのでは？時間が限られているので、講演者は1人にした方が議論がより深まったのではないかと。
- ・とても興味深いお話が伺えて、とても良い勉強になりました。次回も期待しています。
- ・内容は難しいものでしたが、学問に触れることができ、満足しました。
- ・考える良い機会となりました。是非次回を期待しています。
- ・もう少し時間が長ければよかったですと思います。
- ・フロアーの意見も吸収すべきかと思う。時間が足りない。
- ・大変素晴らしいシンポジウムで、参加出来たことをうれしく思います。
- ・本日与えられた資料を前もって読んでいたら、もっとこのセミナーに参画できたと思う。
- ・全体的にもっと時間が欲しかった。
- ・残念ながら、翻訳、通訳がよくない。